

第 11 回小樽市中小企業振興会議 【 議事録 】

日時：令和 4 年 5 月 27 日(金)9:30～10:15

会場：小樽市役所 第 2 委員会室（別館 3 階）

出席者：李会長、近久副会長、井上委員、松田委員、伊澤委員、中山委員、齋藤委員、
中田委員、佐橋委員、加藤委員、阿部委員、佐々木委員

事務局：産業港湾部長、産業港湾部産業振興課長、
産業港湾部産業振興課主査、産業港湾部産業振興課主事

次第 1：開 会

事務局 ただいまから第 11 回「小樽市中小企業振興会議」を開催させていただきます。前回、第 10 回振興会議から少し時間が経過しておりますので、簡単に経過を御説明させていただきます。第 3 回目の会議を行いました、令和元年の 5 月に市長から諮問をさせていただいて、第 10 回振興会議を令和 3 年 11 月に開催しまして、答申をまとめたいただいて、12 月 24 日に市長への答申をしていただきました。そして、第 11 回振興会議を本来であれば今年の 2 月に開催する予定でしたが、コロナの関係で延期していました。したがって、本日が第 11 回の振興会議となります。前回の会議におきまして、ポイントとして 1 つ目は、答申案についての議論を行っていただいたということ。2 つ目として、今後のこの会議の議題について、「取り組むべき視点、手つかずの課題に対する議論を進めるか」あるいは「現在実施している市の事業の検証を行うか」ということに御意見をいただきまして、「市の事業の検証を行う」という御意見が非常に多かったという結果となりました。3 つ目は、今後の進め方について、「若い人の意見を取り入れていくべき」ということで御意見をいただきました。そういった前回の議論を踏まえまして、御議論いただければと思います。

次第 2 意見交換

会 長 いま説明がありましたけれども、昨年 12 月 24 日に市長への答申を行いまして、まずは振興会議として 1 つの形をつくることができました。また、答申を基にした「女性の復職支援」「パッケージ作成支援」については、すでに市の予算がつき事業化されております。「創業支援補助金」についても移住者の加算が行われたと聞いております。後ほど、事務局から説明があると思いますので、詳しくはその時に御確認いただければと思います。では、今後の取組、進め方について事務局より示されておりますので、御意見をいただければと考えております。関連がありますので、資料 1 から資料 3 までを事務局から御説明いただければと思います。

事務局 <資料 1「小樽市中小企業振興会議【今後のスケジュール】」について説明>
<資料 2「市の中小企業振興施策について」について説明>

<資料3「主な取組について（令和4年度）」について説明>

会 長 ただいま、事務局から説明がありました今後の進め方について、産業振興課が担当している業務に絞って議論していきたいとのことですが、これについては何か御意見はございますか。特に御意見ありませんでしたので、産業振興課が担当する業務について検証を行っていくこととします。次に、事業検証を行うメンバーについてでございますけれども、事務局の案としましては、各委員、所属団体が人選を行うこととしておりました。また、任意の組織になるので報酬等は発生しないこととなります。もちろん、このままのメンバーで事業検証を行っていくという形も考えられますので、皆様からの御意見を伺いたいと思います。これは一人一人御指名をしますので、簡単に御意見を頂ければと思います。では委員お願いします。

委員 確認の意味も含めてなんですけれども、スケジュールの中で示されていた若い方からの意見聴取の関係で、委員の関係組織からの人選というイメージを伝えられまして、この幅といいますか、そこら辺の具体性をもう少しお伝えいただければと思います。

会 長 これについて、事務局から何かありますか。

事務局 まずは皆様の団体の役員の中で若手がいればその方ということも1つありますでしょうし、役員になっていなくても、その運営に関わっている方で、例えば青年部みたいな組織があってそこで御活躍されている方であるとか、そういった方がいないとしても、御加盟いただいている企業様の中で目立った活躍をしているような若手の方がいればその方でも構いません。団体内でも、団体に加盟している企業の中からも、そこは問わないと考えております。

委員 この検証の場に、組織の若手を連れて同席するとういう感じですか。

事務局 若い方だけの部会を作って進めるというイメージです。若い方だけで議論をしていただくことを想定しています。

委員 イメージは理解いたしました。私個人の判断もなかなか難しいところなので、それでいいのではないかという私の関係組織の中での意見があれば、そこは率先して対応していきたいと考えていますので、そういう意味では、私自身は前向きな判断ですということ、意見とさせていただきます。

会 長 ありがとうございます。では委員お願いします。

委員 たしか前回の議論のクロージングとして、我々だけでは限界があるので若い人を、と言った記憶がありますので、私も若い人だけで部会を作ることに賛成でございます。その中で、目上の人が入るとどうしても若い人の議論が活発にならないことや、遠慮してしまう部分もあるので、若い人だけの方がいいのではないかという意見があったと記憶しており、私もそのとおりだと思います。せっかく若い人が集まる機会でございますので、

若い人だけで自由闊達な議論をしていただくのがいいのではないかと思います。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委員 若い人を集めて議論するというのは、これから10年20年先というのは若い人たちに頑張ってもらわなければいけないので、その人たちの意見や考えを聞きながら進めるというのは“あり”だと思っております。うちの会社を見てみると、若い人はいるのですけれども、小樽に住んでいない人が多いので、小樽に住んでいる人で若い人を集めるという方向で進められればいいのかと思います。

会 長 ありがとうございます。では委員お願いします。

委員 若い人だけで議論するというのは、ぜひ試みたらいいと思います。やらないでどうだろうという議論よりは、まず行ってみてどんな話がみんなからでるのかを試みるということがいいのではないかと考えております。あと、委員と同じですけれども、自分の組織からすると、こういう場でしっかり発言できそうな年齢層が、札幌から通っている人が多いので、若い人たちだけのワーキングをするときには、もっと焦点を絞った形で進めた方が活発な意見が出ると思います。

会 長 ありがとうございます。委員お願いします。

委員 昨年末の市長への答申を終えまして、いよいよこれからというときに再びコロナの影響が出ました。今年3月までのまん延防止期間が過ぎまして、5月の大型連休を契機に、域外からの観光客が続々と小樽を訪れています。しかし、コロナ前とは雲泥の差があって、地元住民による購買意欲は低いまま推移をしております、本調子とは言えません。さらに、売り手と買い手両方の高齢化にも拍車をかけていて、売り手側はこの機会に廃業したい、買い手側はコロナ前みたいに歩出く理由がない、と悪循環が加速しています。また、若い消費者に、地元業者への購買意欲を振り向かせる方策が求められており、双方の隔たりを埋める努力が必要だと感じています。小樽市のこれまでの中小企業振興施策を拝見しました。この2つの新事業が、こうしたコロナ禍でどん底に落ち込んだ市内経済浮揚の起爆剤になることを切に願ってやみません。そこで、こうした小樽市のこれまでの中小企業振興施策がどれだけ活用されているのかというのを、よく伺った上で検討する必要があるかと思います。小樽市のこれまでの中小企業振興施策には、売り手側、生産者側、企業を応援する施策はありますけれども、買い手側、いわゆる地元に住み地元の商店や企業からものを買ってもらうことを促す消費者向けの施策がないように思います。私が見つけられないだけかもしれませんが、あれば後ほど教えていただければと思うのですが、この考え方は本市の振興条例に謳われています。市民の理解と協力第10条、「市民は、中小企業の振興が地域経済の振興及び市民生活の向上において果たす役割の重要性を理解し、中小企業者等が行う事業及び社会貢献に関心を持つとともに、その商品の購入又はサービスの利用などにより、中小企業の健全な発展に協力するよう努めるものとする」とあります。収束の目途がたたないコロナ禍の下で売り手側地元企業と、買い手側地元消費者の距離を縮める、そんな施策をこの会議でもっと議論

すべきではないかと考えます。いま業者が必要なものは何か、いま消費者が地元業者に求めているものは何か、つぶさにしっかりと掴まなければ施策を立案することはできません。そのために、毎度言っていますが、観光客以外の消費者、地域住民、市民の実態調査を引き続きお願いしたいと思います。高齢化が著しい小樽市において、消費者目線の顔の見える商売を求めているのではないかと、その実態を知ることは、中小企業と市民をつなぐことを目的としたこの条例の運営において、また、地域内の循環経済を作るうえでも有益になるのではないかと考えます。長くなりました。次回の会議で若い方の意見交換が予定されているようですが、私も大賛成でございます。ぜひ、ここに集まっている委員の皆様が納得できる人選の中でやっていただきたいと思いますし、どんな内容でどんな質問をしていくのかということも含めて検討していく必要があるのかなと思います。以上です。

会 長 ありがとうございます。続きまして委員をお願いします。

委員 私がこの場に代表として出てきているのは、私が若手だからです。親会と青年部がございまして、親会では若手から一番目か二番目ということで私が出てきているのですが、青年部の方に話をもっていった積極的に参加をさせていただければと思います。ただし、組合では、札幌に住んでいる人が圧倒的に多い状況です。小樽市在住ということには当てはまらないかもしれませんが、どんどん意見を言える若手を何とか青年部の方で選んでいただきたいと思います。

会 長 ありがとうございます。では委員をお願いします。

委員 私も、若手ということで青年部の代表で出ていますが、とはいえ私も50代で、あと現役10年くらいしかいないのではないかと考えたときに、将来の小樽のことを考えると、20年後30年後というのを考えていかなければならないというところで、組合の中で若手というと、青年部がもう高齢化しているので、その下ということで現役で商売している人たちかなと思っています。その中から人選をさせていただいて、若手のワーキンググループの中に入って一緒にディスカッションしていくというのは非常に有益なことで、この先小樽の未来を担っていただく皆さんに意見をいただくのは非常にいいと思っています。一方で、誰がどのようにワーキンググループを仕切って進めていくのだろうというところで、例えば商大の若手のマーケティングですとか、いろんな分野に詳しい方がファシリテーターとして参加してくださって、例えば、商売している個人の方にそこで学んでいただいたり気づいていただいたり、新しい関係性を築いていただくということが非常に重要になっていっています。ワーキンググループには年齢層や男性女性など、なるべく広く色んな人が入るよう、我々が集めることがすごく重要であると思っていますので、小樽在住、札幌在住含めて、後志の方に住んでいても構わないと思うのですけれども、この先私たちのまちをどうしていくのかということを、真剣に考えて意見を言い合える場がもしここでできたとしたら素晴らしいことだなと思っています。

会 長 ありがとうございます。では委員をお願いします。

委員 まず1つは中小企業振興に関わる施策についてどう思うかとか、それを検証していくとか、そういう話をしたときに、現実には施策を利用している人たちと関心のない人たちと、色んな方がいるわけで、皆さんがおっしゃるように、若い人が将来について学びの場となることについてはやるべきであって、非常に重要なことだと思います。ただ、今行っていることに自分が関わっていなかったら意見するのは難しいので、それを学びの場として利用するのはありかなと思います。もう1つは、目的が何なのかということだと思います。何のためにやるのかということが大前提であって、具体的に何をやるのかというときに、お金が無限にあるわけじゃないので、10年後20年後を踏まえた上での施策をみんなで夢を語ってもらい、方策として考えていくのか、それとも現状このコロナ禍で非常に苦しい、緊急施策としてやっていかなければならない問題は何なのかということも含めて考えていくのか。その辺のところは明確にした方がいいと思います。良い悪いという判断、どちらが優先度が高いか低いか、それは何に対してなのか、というところは明確にしておくべきです。もう1つはテーマをはっきりと明示してそれによって人選することも考えていかないと、集まって好きなことを言って終わったらあまり意味がないのかなと思います。だからテーマを絞って、将来性のある若者を中心に話をしてもらおうということになってくると感じました。以上です。

会 長 ありがとうございます。では委員お願いします。

委員 若い人の話ですけれども、青年経営者懇談会という組織に、50歳以下の青年経営者が40人弱いるんですよ。もちろん小樽市在住ですから、そういう意味では、色んな商売をやっている方が中心なので色んな御意見が出ると思うのですよね。若い人もそうですけれども、女性も含めて考えてみてはいかがかなと思います。経営者でも女性の方もたくさんいるので、そういう方の御意見も聞きながら、もちろん若い方の意見も聞いて、小樽市が市民をあたたく迎えらるような、貴重な御意見をもらえればまだまだ色んな策が出てくるのかなと考えています。以上です。

会 長 ありがとうございます。では委員お願いします。

委員 まず中小企業振興施策なのに産業振興課の担当のところが多岐になっていますが、実は雇用労働も商業も全部大事で、市役所で組織的にチームが分かれているというのも十分承知していますけれども、我々市民、事業者としましては、中小企業振興施策として産業振興課が担当していることを中心に、とはあまり考えません。企業支援はこのコロナ禍がありまして、商業と工業と分けると、商業は非常に厳しい状況は皆さんご承知のところかと思いますが、資本力の多寡によりまして、非常に今後厳しいことがやってくるだろうと言われています。工業は仕事はありますけれども、環境が厳しくなっています。例えばものが入ってこないとか高いとか、エネルギーが高いということで、経営的に圧迫要素があるので、仕事はあって、人手不足だけれども、採算が厳しいというのが一般の状況かと思っています。その中で若者というのは年齢的にどの範囲を指しているのかというのがありまして、30代なのかと勝手にイメージしているのは私だけなのか、20代も入れていいのかということもありますし、青年部のメンバーはおそらく40歳から53歳までで、そのメンバーが該当しているのかどうかというところで

す。それから若手を入れるのであれば、日中に会議をするかもしれないですが、市の職員もやる気になってもらうために入れてもらえたら応援したいと思っています。こういう辛いときに私ががんばらなければという人が市の若手の中でもいるのは分かっていますけれども、もっとそういう機会を増やすのがいいのだろうと思いました。以上です。

会 長 ありがとうございます。では最後に委員お願いします。

委員 若手のグループをつくって意見交換をしてもらうというのは非常に結構なことだと思います。たくさん意見が出ていたように、テーマを絞るべきだと、これは非常に重要なことだと思います。ここで答申されているのは網羅的で広い話です。ですから、若手に何を議論してもらうのかと。例えば小樽の商品をもっと売れるようにするにはどうしたらいいかといったテーマもあるかもしれませんが、あるいはこれから会社をたたんでしまう中小企業が出てくるときに、事業承継をどうするのかなど、テーマを絞って意見交換してもらうことが重要ではないかと感じました。

会 長 ありがとうございました。皆様若手の方を中心としたワーキング会議を作ることは賛成という御意見でした。ただし、御意見いただいたとおり、若手の範囲はどこまでとするのか、あるいは男性女性のバランスを考えてほしい、テーマを絞るという話、利用者の観点を盛り込んでほしい、といった意見などたくさん頂戴いたしました。調整は事務局にお任せしますけれども、選定に当たっては各委員に情報共有をしていただければと思います。さらに御意見もあると思いますので、情報のやり取りをしながら設置していただくと思います。大学もできれば若い委員ということですので、なるべく若い30代の委員を推薦したいなと思いました。ということで長くなりましたけれども、次に答申に基づく事業の説明となりますが、資料4、資料5について、事務局から説明をお願いします。

事務局 <資料4「新事業①女性復職支援事業について」について説明>
<資料5「新事業②パッケージ作成支援事業について」について説明>

会 長 ありがとうございました。ただいまの説明について質問等はありませんか。特にないようですので、事務局から事業の説明がありました。が、「女性復職支援」については、6月から企業を募集するということで、まずは委員の皆様の企業が登録されますよう御協力いただき、所属される団体から会員企業の皆さまに対しても、周知していただき登録される企業を増やしていただければと思います。きちんと活用されるホームページになることを期待しています。また、「パッケージ支援」につきましては、3つの商品の募集ということで皆様には周知をお願いしたいということと、投票もあるようですので、そこにもできれば御協力をいただければと思います。次回の振興会議で進捗状況などを報告していただきたいと思います。

次第3 その他

会 長 全体を通して、何か御意見等ございませんか。小樽に住んでいない方も現実的にたくさ

んいますし、そういった方も小樽市について関心がないわけでは決してないと思いますし、御自身の職場などがある大事な地域だと思いますので、そこがどのように発展していくのかという想いは一緒だと思います。こういった皆さんの想いを共有できるような若者に、市の発展を託していく形ができれば一番いいなと思っています。

次第4 閉会

会 長 活発な御議論をいただきましたので、本日はこのあたりでお開きにしたいと存じます。事務局から何かありますか。

事務局 <事務連絡>

会 長 それでは、以上をもちまして、第11回小樽市中小企業振興会議を終了いたします。本日はありがとうございました。